

## 新青丸研究航海報告

- \* 航海番号 KS-21-11 次研究航海
- \* 航海名称 (和文) 洋上水蒸気量の微細構造推定手法の開発による黒潮から大気への水蒸気供給の実態解明  
(英文) Moisture supplies from the ocean to the atmosphere over the Kuroshio by development of a method to estimate the fine structure of atmospheric water vapor
- \* 観測海域 (和文) 四国～熊野灘沖の黒潮周辺海域  
(英文) Kuroshio region off Shikoku to Kumanonada Sea
- \* 航海期間 令和3年6月14日(月)～令和3年6月23日(水)
- \* 出港日時・場所 6月14日14時 横須賀港
- \* 入港日時・場所 6月23日10時 高知港
- \* 寄港期間・場所 無し
- \* 研究課題 洋上水蒸気量の微細構造推定手法の開発による黒潮から大気への水蒸気供給の実態解明
- \* 主席研究員 (氏名・所属・職名・e-mailアドレス ◎は@)  
小松幸生・東京大学大学院新領域創成科学研究科・准教授・kosei@aori.u-tokyo.ac.jp
- \* 研究内容, 主調査者 (e-mailアドレス), 観測項目
  1. 黒潮域のサブメソスケール海洋構造が海洋から大気への水蒸気供給に与える影響の解明、小松幸生 (kosei@aori.u-tokyo.ac.jp)、CTD/LADCP・XCTD、船底 ADCP、GPS 漂流ブイ
  2. 洋上水蒸気量の微細構造を推定する手法の開発、吉田 聡 (yoshida.akira.4z@kyoto-u.ac.jp)、GNSS 水蒸気計、マイクロ波放射計、ラジオゾンデ
  3. 渦相関法による大気海洋間乱流フラックスの実態解明、近藤文義 (fkondo@jcgga.ac.jp)、フラックス計、飛沫計、船上気象計

4. 波浪が大気海洋間の乱流フラックスに与える影響の解明、小松幸生 (kosei@aori.u-tokyo.ac.jp)、船舶用レーダ波高計、ドップラ波高計、多項目ブイ
5. 海底地震計による大気・海洋短周期変動推定手法の精度検証、小松幸生 (kosei@aori.u-tokyo.ac.jp)、CTD/LADCP、気象ゾンデ、船舶用レーダ波高計

\* 乗船研究者氏名・所属・職名

小松幸生・東京大学大学院新領域創成科学研究科・准教授  
 吉田 聡・京都大学防災研究所・准教授  
 余 泽庶・東京大学大気海洋研究所・大学院生  
 Sk. Istiaque Ahmed・東京大学大気海洋研究所・大学院生  
 王 業浩・東京大学大気海洋研究所・大学院生  
 富田博隆・東京大学大気海洋研究所・大学院生  
 富田涼介・京都大学大学院理学研究科・大学院生  
 山田怜史・京都大学大学院理学研究科・大学院生  
 石井 智・京都大学大学院理学研究科・大学院生  
 蔣 英男・名古屋大学大学院環境学研究科・大学院生  
 Son Jinyoung・北海道大学大学院理学院・大学院生  
 松田和希・鹿児島大学大学院農林水産学研究科・大学院生  
 佐藤弘康・マリン・ワーク・ジャパン海洋地球科学部・観測技術員

\* 航跡・測点図

